授業科目名・形態	薬理学概論	必修・選択の別	必須	単位数	1
科目担当者氏名	三浦昌朋	実務経験の有無	有	開講期	1年後期
科目ナンバリング	N3-1004npmht				

【授業の主題】

薬物は、生体に作用して生物学的反応を引き起こす化学物質であるが、法律で医療に限定使用が認められたものを医薬品といい、疾病の診断・治療・予防など医療全般に用いられる。本講義では、医療に使用される薬物の作用機序および有害事象を学び、医療人として必要な基礎知識を習得する。

【到達目標】

疾患に使用される薬物の目的および作用機序を理解し、患者への薬物療法において安全・適正な薬物療法に貢献できる資質を構築する。

【授業計画・内容】

各種治療薬の作用機序および副作用について解説する。

第1～3回　末梢・中枢神経系作用薬（麻酔剤・催眠薬・抗てんかん薬・抗パーキンソン薬・向精神薬・麻薬等）
第4～6回　循環器系・心不全治療薬、抗不整脈薬、抗狭心症、抗高血圧症薬、抗脂質異常症薬等
第7～8回　呼吸器系作用薬・消化器系作用薬・アレルギー用薬・免疫抑制薬等

【授業実施方法】

基本的に教科書の内容に沿ったスライドを用い、講義形式で内容を丁寧に説明し、理解度を高める。

【事前・事後学習】

講義内容に関する教科書『系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進[3]　薬理学　医学書院』の該当項目を事前学習として毎回2時間以上行うこと。
講義内容を踏まえ、復習を教科書と配布資料を用いて毎回2時間以上行うこと。
なお、理解できなかった点は、適宜教員に質問し、早めの理解を心がけること。

【主な関連する科目】

生理学および生化学

【教科書等】

系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進[3]　薬理学　医学書院

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

試験成績(80%)と授業態度等(20%)で評価

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

秋田大学医学部医学科の臨床薬理学等の講義の主任教員を担当、保健学科の薬理学の講義を担当してきており、実務経験から得た薬物治療を行う上での注意点・臨床現場に出る前に学んでおくべきポイントについて講義する。

【学生へのメッセージ】

将来、臨床現場に活かして欲しい